

21J-am07

へき地住民に必要な薬局薬剤師による医療サービス

○北岡 泰介¹, 宅間 大祐¹, 岩崎 裕昭², 濱田 篤秀¹ (¹エール薬局, ²阪神調剤ホールディング)

【目的】高知県の中山間地域にあるへき地では無医地区が多く、へき地の限られた資源や人員では、質の高い医療を提供できず、医療供給体制の確保は大きな課題である。また、高齢者の薬物療法への薬剤師の介入は有用とされており、へき地でも積極的な関わりが求められる。そこで今回、へき地住民の医療向上のため、必要とされる薬局薬剤師による医療サービスについて調査した。

【方法】無医地区近隣のエール薬局2店舗(土佐町、本山町)の来局患者を対象に、無医地区診療所及びへき地診療所の巡回診療等に関するアンケートを2018年11月に実施した。調査票は、無記名自記式で行った。

【結果】回答者72名の独居率は25%、巡回診療の利用経験有りは31.9%、利用時のお薬手帳持参率は8.7%、移動手段は家族による車が最も多く31.9%、徒歩は2.8%。利用しない理由は「検査や診療への不安」が最も多く、次いで「処方してもらえる薬が少ない」。97.2%は対面による服薬指導が最もよく、テレビ電話での服薬指導の希望者は16.7%。今後利用したいサービスでは、調剤薬の自宅配達最も多く、次いで一般用医薬品及び衛生材料の自宅配達、在宅訪問、お薬相談、一般用医薬品及び衛生材料の販売等が挙げられた。

【考察】へき地では、医療機関への自力移動は困難であり、医薬品等の自宅配達の必要性は高い。薬局薬剤師が無医地区診療所と同行し、無医地区での服薬指導が可能になれば、併用薬等の患者情報を薬局で確認し、調剤薬や一般用医薬品を自宅配達することにより、へき地住民の医療向上に寄与できると考えられる。